

【資源】 ハワイ語の地名であるkalaupapa（カラウパパ）は、たぶん“平らな葉”（flat leaf）というのが最もよい解釈である。その半島は、実際、幅約2.25マイルの比較的平らな溶岩の葉である。2,000フィートの崖により、カラウパパの住民によって、“トップサイド”として言及されている場所から張り出している。その半島は、その源がカウハコ・クレーター（Kauhako Crater）である、その周縁が海拔約400フィートである小さな火山によって形成されている。それは、アイスランド型楕状火山の代表的な例を表している。

モロカイ島の中北部海岸に位置するカラウパパ国立歴史公園は、国立自然文化財（National Nature Landmark）である壮大な北海岸の断崖の一部を含む。断崖は、地質学的意義の故に画期的な地位にあり、島の東の端のほとんどを作り上げている溶岩の膨大な層をむき出しにしている。その公園の東まで、それらは3,000フィート以上、海からそびえ立っているのが見える。

公園の公式な境界は、半島それ自体、ニホア（Nihoa、カラウパパの西と結合している伝統的な土地）、そして東モロカイの元々の楕状火山を深く浸食する3つの狭い溪谷を含む。これら3つの溪谷、ワイコル（Waikolu）、ワイアレニア（Waialeia）及びワイハナウ（Waihanau）は、3つの側面が1,600～3,000フィートの断崖に隣接している。

海岸線から4分の1マイルまでの沖合、パラアウ（Palaau）からワイハナウ（Waihanau）への断崖のトップに沿った細長い土地、パラアウ州立公園（Palaau State Park）の一部も含む。トータルで約10,726エーカーの土地は、この境界内に含まれる。これには、8,726エーカーの土地と約2,000エーカーの沖合の部分を含む。

公園のより離れた区域のいくつかは、さまざまな絶滅寸前のハワイ固有の植物や稀少動物の生息場所を含む。これらの区域は、最も湿った溪谷を通り抜けた半島の乾燥した最北端から、プウウアリイ区域（Puu Alii area）の上部の熱帯雨林まで及ぶ。加えて、その風景の至るところにある石の構造物や地物は、ヨーロッパ接触前から19世紀前半における初期の歴史的時代までの占領時代を象徴している。

多数の石壁、段々畑、植林並びに石の杭のようなその他の農業的地物が存在する。ハウスサイト、生活区域、宗教的建築物あるいは寺院も存在する。考古学的地物が破壊されている場所を除き、考古学的資源が欠けていると考えられる地区はない。今日存在している考古学的資源の実際の数とタイプ、900から1000年にわたり占有され公園内で使用された可能性、そして資源の優れた保存状態によって、カラウパパ国立歴史公園は、ハワイにおける最も豊かで価値のある考古学的保存地域になっている。

（歴史的重要性）

ハワイにおけるハンセン病の歴史は、家族から引き離されしばしば“生きながらの死”と言われたところへ急かされて運ばれた、およそ8,000人の人々の物語である。

これらの人々がセツルメントに送られた当時、彼らが、将来の世代がこの島の小さな部分で起きた出来事に気に掛けると考えていたかどうかは疑わしい。しかし、次第に、人々は、それらの出来事から学ぶことが多いことや自らその人生を作ってきた人々を気に掛け、理解するようになっている。

カラウパパ国立歴史公園の設立は、国民と世界に、この歴史の重要性を公に認識させることである。この公園は、病気だけでなく人に対する人の残酷さを克服する人間の肉体的・精神的な能力へのモニュメントとして存在する。加えて、ハワイは、地理的に狭いが文化的には多様な地域における、約150年という期間における、ハンセン病の流行や特有なコースを解明する貴重な機会を提供する。

ハワイのハンセン病治療への貢献は、医学的にも社会的にも意義があり、ハ

ワイにおけるこの病気の歴史は、数世紀の間、恐怖と誤解に包まれてきた病気の現実について、世界を教育する強力な手段を与える。

ハワイにおけるハンセン病の起源は、1830年代にハワイ人の間で報告された、いくつかの信頼できる事例に遡ることができる。最も広まっている理論は、ハンセン病は、サトウキビプランテーションで働くために呼び寄せられた中国人労働者によってハワイに持ち込まれたというものであった。ハンセン病は、マイパケ (Maipake, 中国人の病気) とマイアリ (Mai alii, チーフの病気) という二つの名前で知られるようになった。

ハンセン病は、カメハメハ5世が“ハンセン病の拡大を防止する法律” (An Act to Prevent the Spread of Leprosy) に署名した1965年1月3日に、ハワイ王朝の公的な関心事になった。この法律は、もし“野放しで” 放置したら、病気が広がるかもしれないハンセン病を患った人々を隔離する目的で、土地を分離することを認めた。1965年11月、カリヒ・レプロシーホスピタル (Kalihi Leprosy Hospital) が、ホノルルの近くに開設された。ハンセン病が疑われるケースが、ここで治療を受け、より重症で治療ができないケースのみが、ハンセン病セツルメントがカラワオに設立されたモロカイ島に送られた。最初の患者のグループは、1866年1月6日、セツルメントに送られた。

【5つの時代】

ハワイとカラウパパセツルメントにおけるハンセン病の歴史は、5つの時代に分けられる。

第1期は、およそ50年 (1866年－1910年) に及ぶ。病気を患った人々が、身を隠した、恐怖と絶望によって特徴づけられた。患者は、発病後も長い間、コミュニティにとどまり、彼らがセツルメントに到着する時まで、病状がさらに進行していた例もあった。2, 3の例外はあったが、寿命は短かった。“ファッドキュア” (Fad cures) の時代であり、患者の短い寿命とスタッフの長い期間の介護は、患者よりも労働者に焦点が向けられた時代であった。

第2期 (1910年－1929年) は、進歩の時代であった。大まかに20年からなり、

ハンセン病に対する科学的な知識とセツルメントでの医学的状況の大幅な改善において大きな一步を経験した。病気の治療薬としての大風子油の開発とその幅広い使用は、その状況に希望の要素をもたらした。病気が初期の段階に人々は、進んで治療に取り組んだ。早期の診断と治療は、寿命の長期化をもたらした、この時代からの何人かの患者は、70、80歳代及び90歳まで生きた。病気に対する姿勢も変化していたが、なお長い道のりがあった。

第3期（1930年－1945年）は、システム、行政及び態度に変化が見られた。大きな変化の時代であったが、また大風子油への信頼が減少し、再びハンセン病は不治とみなされたため、患者によっては極めて絶望的な時代でもあった。

第4期（1946年－1969年）は、患者の隔離の必要性に関し、繰り返される論争を導く偉大な医学的進歩を経験した。1940年代の治療薬としてのスルフォン剤の導入は、1969年に古い隔離政策の事実上の廃棄に導いた。スルフォン剤は、“奇跡の薬”（Miracle drug）と呼ばれ、患者らは、“夜明け”の変化を感じるとコメントした。1940年代の終わりに、患者と非患者との間の物理的な壁が取り除かれ、多くのエンタテナーがセツルメントを訪問した。シャーリー・テンプル、ジョン・ワイネ、トラップファミリーシンガー、レッド・スケルトン、エドワードG. ロビンソン、エドガー・ベルゲン、チャーリー・マクキャシーなどが含まれた。スルフォン剤により元気を取り戻したことが、セツルメントでの活動や運動を増大させた。この期間に生きた患者たちは、運がよく、これらの抗生物質により、1950年代頃までに恩恵を受けた。患者の寿命は、一般的な人々のそれを正確に映しだしはじめた。

第5期（1969年－現在）は、カラウパパにとどまることを選択した以前の時代の者の代表者らを除き、外来患者が普通となった時代である。新しい病気の症例の増加をもたらした移民のパターンのような問題に悩まされた時代である。しかしながら、それらの問題を解決する知識を持っている時代でもある。それらから学ぶべきことが沢山あることが分かったため、多くの注目が、以前の4つの時代に集中される時代である。

この第5期は、過去の記憶や教訓を保存することに尽力している国立歴史公園へのカラウパパの進化を目のあたりにしている時代である。

1835年

カウアイ島カロアに住んでいたハワイアン女性であるカムリ（Kamuli）に、ハンセン病が確認された。

1838年

1月23日、バーバラ・コープ（後に）マザー・マリアンヌ・コープ）が、ドイツのヘッペンハイムで生まれた。彼女と彼女の両親は、1940年に合衆国に引っ越した。

1840年

1月3日、ヨセフ・デ・ブーステル（後にダミアン神父として知られる）が、ベルギーのトレムローで生まれる。

1843年

4月27日、Ira B. ダットン（後にブラザー・ジョゼフ・ダットンとして知られる）が、バーモント州ストーで生まれる。

1850年

ハワイの最初の保健局は、主にコレラ問題を取り扱うために創設されたが、徐々にハンセン病の審議に携わっていった。

1864年

3月19日、ヨセフ・デ・ブーステルが、ホノルルに到着した。彼はホノルルのカテドラルオブアワーレディオブピース（全米のカテドラルの中で最も古い建物である）で叙階（司祭になる儀式）をした。その直後、彼はハワイ島のプナに送られる。1865年

7月、彼は、その後の8年を過ごすことになったコハラとハマクア地区に異動になった。

1865年

1月3日、カメハメハ5世が、“ハンセン病の蔓延を防止するための法律”（An

Act to Prevent the spread of leprosy)に、署名し法律として成立した。この法律は、ハンセン病患者を隔離する目的のための土地の分離を許可するものである。11月13日、その病気に罹った疑いのある軽症例の治療とモロカイ島のセツルメントに“出航”を待っている人々のために、ホノルルの郊外に、カリヒ病院が開設された。

【カラワオセツルメント】

1866年

1月6日、モロカイ島カラワオのハンセン病セツルメントへ、初めての、患者の”出航”が行われた。この最初のグループは、9人の男性と3人の女性により構成された。12月23日、35人の人々が、シロアマ（Siloama）の集会を組織するために、一緒に集められ、カラワオで最初の教会を設立した。

1871年

シロアマで、“チャーチ・オブ・フィーリングスプリング”が開かれた。

1872年

ブラザー・ビクトリン・ベルトラント（Brother Victorin Bertrant）は、ホノルルで木製のチャペルを作り、それをカラワオに移送した。それは5月30日に、神の祝福を受けた。セント・フィロメナ（St, Philomena）に捧げられた。そして“ダミアン教会”として、一般に知られている。

1873年

2月28日、32歳のノルウエー医師ゲルハルト・アルマウエル・ハンセン（Gerhard Armauer Hansen）が、らい菌を発見した。この発見は、ハンセン病が細菌によって引き起こされること、それ故、遺伝病というより、むしろ伝染病であることを証明した。

5月10日、33歳のダミアン神父がカラウパパに到着した。

さまざまな努力が、“逮捕する”ためになされ、ハンセン病の全ての患者が隔離された。

1875年

ホノルルのカリヒ病院が閉鎖された。

1881年

カカアコブランチ病院 (The Kakaako Branch Hospital) が、ハンセン病患者の治療のためにホノルルに開設された。

1883年

11月8日、マザーマリアンヌコープ (The Mother Marianne) の指導のもとに、カカアコブランチ病院で働くために、聖フランシスの6人のシスターがホノルルに着いた。

1885年

ダミアン神父は、公式にハンセン病に罹患していると診断され、そのニュースが公になった。

11月9日、セツルメントで、両親の間に生まれた子どもたちを世話するために、ホノルルにカピオラニ・ホーム (The Kapiolani Home) がオープンした。

1886年

7月29日、ヨセフ・ダットン (Joseph Dutton) が、セツルメントに到着した。ダミナンは、彼を歓迎し、彼を”ブラザー”と呼んだ。

1886年-1894年

カラワオの少年たちのためのボードウィン・ホーム (The Baldwin Home for Boys) の進展。1886年に、ダミアン神父は少年のための小さなホームを設立し、彼らをダミアンの家を取り囲む小さな小屋に住ませた。数年で少年らの数が増加し、二つの大きな建物が建てられた。次の数年でさらに建物が建築され、1894年までにホームは29の建物を有した。それは、ホームの拡張にお金を寄付したマウイ島のヘンリー・P・ボールドウィン (Henry P. Baldwin) にちなんで名付けられた。

1888年

11月14日、マザーマリアンヌ、シスター・レオポルディナ、そしてシスター

ヴィンセントがセツルメントに到着する。

少女のためのビショップホームは、彼らの管理の下、カラウパパに設立された。

カカアコブランチ病院は閉鎖された。

1889年

4月15日、ダミアン神父が、49歳で亡くなる。

5月、ロバート・ルイス・スティーブenson (Robert Louis Stevenson) が、セツルメントを訪問する。

カリヒ病院 (Kalihi Hospital) が、ハンセン病治療のために開院する。

1895年

1月、カラウパパの最後の先住民が退去する。セツルメントは、次第に、半島のカラウパパ側に集中する。

サクレッド・ハートの4人の修道士が、11月30日に、ボードウインホームの少年たちの世話を手助けするためにカラワオに到着する。

【カラウパパセツルメント】

1902年

ドクター・ウィリアム・J. グッドフュー (Dr. William J. Goodhue) とジョン D. マックベイ (John D. Mcveigh) は、セツルメントの研修医と管理者の地位に就任する。彼らは、1925年後半に退職するまで23年間、それらの地位に就いた。

1905年

合衆国議会は、カラワオの病院と研究所のために10万ドル、そして毎年の維持費として5万円を提供する法案を通過させた。これは、議会によって認められた特別の疾患に関する調査のための最初の病院である。

1907年

ジャック・ロンドン (Jack London) と彼らの妻チャーミアンが、セツルメ

ントを訪問する。彼らの訪問によって刺激を与えられ、この経験について書いた。

1909年

カラワオの合衆国レプロシー・インベスティゲイション・ステーションが、ドクターワルター・ブリンクカーホフを初代所長として開設される。

1913年

合衆国レプロシー・インベスティゲイション・ステーションが閉鎖する。短い期間に、9名の患者を集めたにとどまる。調査は代わりにカリヒ病院で実施される。

1918年

8月9日、マザーマリアンヌが80歳で亡くなった。カラウパパで30年間仕えた。

1920年代

ジェームス・T. マクドナルド博士とアーサー・ディーン博士 (Drs. James T. McDonald and Arthur Dean) は、ハンセン病の治療として、大風子油のエチルエステルの開発の先駆者である。彼らは、世界中から彼らの調合を依頼された。初期成果は患者を勇気づけ、多くの患者はカリヒ病院から退院した。その治療に対する信頼は、10年間が経過する頃までに薄れた。

1931年

3月26日、ブラザー・ダットンが、87歳で亡くなる。彼は、1930年に、医学的理由でカラワオを去っている。

病院局とセツルメントは、ハリー・クルーゲルの指示に基づき、7月1日に、保健局からハンセン病計画のコントロールを引き継ぐ。カラウパパに関する調査が衰れ、地方議会が近代的な病院の建設を認可し、セツルメントの残りは大幅に再構築される。

1932年

ボールドウィン・ホームは、カラワオからカラウパパに移動される。これは、

カラワオでのセツルメントの公式の終了を示す。

1936年

ダミアンの遺体が掘り起こされ、1月27日にホノルルに運ばれる。それで1週間、威厳を持って横たえられる。2月3日、ダミアンの遺体はベルギーに向けて出航し、5月3日にベルギーに到着する。

1946年

病院局とセツルメントは、カラウパパでのスルフォン系抗生物質の使用を認可する。スルフォン治療は6人の患者で始まる。その薬は一夜での変化を作り出したように思われる。

1949年

ハワイ準州前知事ローレンス・M. ジュド (Lawrence M. Judd) が、カラウパパの管理者になる。彼は、患者と非患者との間のたくさんの物理的な障壁（例えば、フェンス）に、文字通り涙を流す。

1949年

パールシティに位置するハレモハル (Hale Mohale) は、ホノルルに基盤を有するハンセン病治療センターとして、カリヒ病院に取って代わる。ハレモハルで強調されたことは、単なる養護ケアというよりはリハビリテーションである。

保健局は、ハンセン病計画の行政を引き継ぐ。立法府はレプロシー (Leprosy) に代えて、ハンセン病 (Hansen's Disease) という言葉が使用されるべきと宣言する。

1955年

2月、ダミアン神父のケースが、ローマカトリック教会により正式に紹介される。そして、最初のステップが、彼の列福に向かってなされる。

1968年

ドクタートーマス・ヒッチ (Dr. Thomas Hitch) の主導に基づき、ハンセン病に関連するハワイの政策を研究するために、市民の委員会が設立される。

1969年

一世紀前のハワイの隔離法が廃止される。立法府は、市民が、元の名前でその病気を受け入れるように教育するために、集中的な努力がなされるべきであるという考え方にに基づき、ハンセン病（Hansen's Disease）よりもレプロシー（Leprosy）という言葉の使用を指示する。

すべての新しいケースは、完全に外来患者として取り扱われる。

ダミアン神父の英雄的な行動は、バチカンによって、聖人として列聖へ向かう最初の大きなステップとして承認される。

4月15日、彼の死後ちょうど80年、ダミアンの像は首都の塑像ホールで公開される。同一の塑像はハワイ州の州都の玄関に置かれている。

【カラウパパ国立歴史公園】

1973年

“カラウパパの保護のための市民たち”（Citizens for the preservation of kalaupapa）は、カラウパパの歴史的な保護計画を促進するために形成された。

パッシー・ミンク下院議員は、議会にカラウパパ国立歴史公園を創設するための法案、HR12012を提出した。

1976年

議会は、この地域を、国立公園システムの一部とすることについての実現可能性と望ましさを研究するため、カラウパパ国立歴史公園諮問委員会を設立した。

1977年

ダミアン神父は、ローマカトリック教会から尊者と宣言される。

1980年

カーター大統領は、カラウパパ国立歴史公園を設立するための一般法律96-5

65 (Public Law 96-565 establishing Kalaupapa National Historical Park)に署名する。

1981年

州立法府は、再び、“レプロシー”よりも“ハンセン病”が、ハワイにおける公式の用語であるべきと宣言する。この行動は、レプロシーという言葉の使用が、全般的に受け入れられない“レパー”(Leper)という言葉の使用に必然的に導き、そして、この病気となお結びついているスティグマを永続させるという患者による感情に基づいている。

【訪問者情報】

カラウパパは、ハワイ州保健局と国立歴史公園局により共同管理されている。

成立している多数の古い法律を維持する医学的な理由はないけれど、人々が許可なしにセツルメントに立ち入ることを禁じ、そして訪問者の年齢を16歳以上に制限する州法が効力を有していることを指摘しなければならない。

セツルメントに入るためには、訪問者は、あらかじめ保健局から許可を得なければならない。これは、住民によって所有され運営されている二つの旅行会社の一つを通じて行うことが可能である。ガイド付きの旅行は、荒い道路の旅行を含む。

カラウパパへの航空運賃と旅行費用について、さらに詳しい情報が必要な場合には、ダミアンツアー (Damian Tour)か、イケのシーニックツアー (Ike's Scenic Tour, C/O Kalaupapa Settlement, kalaupapa, Hawaii, 96742.

キャンピング、レストランあるいはストアなどの公共施設はない。一泊する滞在は、住民の招待者に限定されている。もしさらに情報が必要であれば、カラウパパ国立歴史公園、カラウパパ、ハワイ、96742に連絡を。

公園へのアクセスは、地理的には全く限定されている。モロカイ島の2000フィートの崖の下のアークスジョアに位置しているので、カラウパパとモロカイ島

のその他の土地とをつなぐ道はない。コミュニティへのすべての供給は、通勤者エアーコミューターの一つの小さな飛行機か、ミュールの背に乗ってパリトレイルをおりるか、あるいは、7月あるいは9月に来る、1年に2回の荷船の一つで運び込むしかない。

セツルメントへ降りる道をハイキングするには、慣れないハイカーにとっては、およそ1時間から1時間半がかかり、登って帰るには1時間半から2時間がかかる。

セツルメントを訪れる時間のない人々にとっては、半島のすばらしい景色は、パラアウ州立公園（Palaau State Park）で可能である。その高みで展示している国立公園局は、カラウパパやその歴史についての重要な事実を提供している。
